

2023.2.16



地域日本語支援ニュース こだま 第 428 号

ともに生きる

～地域で、日本で、そして世界で～

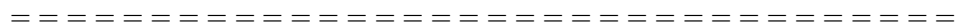


★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>



■ともに生きる：神奈川県鎌倉市から■

鎌倉の海を見晴らす丘の上に、アルペなんみんセンターはあります。設立者の有川憲治さんは、大学在学中にインドシナ難民の定住支援に関わり、1995年からは来日して困窮している移民、難民の支援に従事してきました。その活動の中で住居に窮する難民のためにシェルターの必要性を感じ、2020年より鎌倉のイエズス会修道院を活動の拠点として、難民の住まいや暮らしを支援する、このセンターを設立しました。センターの活動と有川さんの熱い想いを語っていただきます。



難民を歓迎できる社会に
NPO 法人アルペなんみんセンター
事務局長 有川 憲治

◆難民鎖国ニッポン

世界の難民は1億人を超えています。実に人類の80人に1人が、紛争や迫害から逃れて故郷を離れざるを得ない状況に置かれています。日本にも毎年1万人を超える難民認定申請がありますが、難民と認められるのは1%以下です。1982年日本で難民条約が発効してから2021年までの40年間で受け入れた(認定された)条約難民(注1)は、わずか1,000人未満。年間数万人単位で難民を受け入れている先進諸外国と比較して、難民鎖国ニッポンと国際社会から非難され続けています。

◆ウクライナ避難民受け入れを今後のスタンダードに

一方、2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻から1年弱でウクライナ避難民を2,000人以上受け入れ、他の難民申請者と比較にならないくらい手厚い支援が、行政、市民団体、企業、個人から提供されています。難民受け入れに対して、政府、市民社会、企業等の様々なステークホルダーが積極的に連携をとった初めての経験で、今後この体制が、これからの難民受け入れのスタンダードになることを願っています。

◆困窮する来日した難民たち

私は、学生時代にインドシナ難民定住支援に関わり、1995年から2020年まで、東京で外国人(移民・難民)への支援活動に携わってきました。しかしながら、「今日、泊まる場所がありません」との相談に十分応えることができずにいました。

難民申請者は、原則、就労して自活することもできず、日本政府からの支援も限定的です。知人、支援団体からのサポートに頼らざるを得ない状況に置かれています。特に、住居問題は深刻で、迫害から逃れて希望をもって来日した難民がホームレスになる場合もあります。

◆2020年 難民シェルター設立

アルペなんみんセンターは、2020年4月から、カトリック教会のイエズス会修道院(注2)を活動拠点に、日本に逃れてきた難民に「シェルター」「学ぶ機会」「交流の場」を提供しています。設立から3年弱で18カ国40人を受け入れてきました。ウクライナ避難民も6人受け入れました。

入居者は年齢も0歳から70代まで、出身国や宗教、言語、生活習慣もバラバ

ラです。多様なバックグラウンドを持つもの同士ですが、共同生活の中で家族のような温かみに触れたり、同じ苦しみを抱えるもの同士で助け合ったりしています。

日本は「難民鎖国ニッポン」と世界に非難されるほど、その受け入れが進んでいないのが現状です。平和な先進国日本を信頼し、期待して逃げてきた難民の多くは、不安定な在留資格の下で長い間難民認定を待ち続け、生活に困窮するケースも数多くあります。

◆難民の友に、難民と共に

今必要なことは、難民に安心して過ごせる居場所を与えることはもちろんですが、日本社会にこの現状を知ってもらうことや、難民を受け入れることができる素地を整えることではないでしょうか。

この様な背景から、アルペなんみんセンターでは地域とのつながりを大切にしています。この3年弱の活動の中で、地域とつながることに取り組んだ結果、難民と地域の方々両方に大きな変化がありました。地域の方々は、難民と実際に出会うことや、難民の抱える問題を知ることによって、難民の存在を身近に感じ、地域で受け入れるために協力してくれるようになりました。難民は地域の方と触れ合った後、「自分がこの街にいてもいいんだと思えた」「日本語をもっと頑張って、日本のみんなの役に立つ仕事をしたい」などと話していました。この双方の変化は、「難民鎖国ニッポン」と非難される日本が、難民を歓迎できる社会に変わっていくための重要な一歩だと感じています。

(注1) 日本の難民

現在日本には、難民条約に基づく難民として政府が認定した条約難民が、令和3年度の時点で915名いるほか、1975年のベトナム戦争終結後、インドシナ三国（ベトナム、カンボジア、ラオス）で発生した政変に伴い祖国から逃れてきたインドシナ難民（昭和53年～平成17年までの間で11,319人受け入れ）、さらには2010年から日本政府が受け入れを開始した第三国定住ミャンマー難民（令和5年2月現在で229名）が定住している。

（公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部ホームページ
<https://www.rhq.gr.jp/>の説明をもとに記載）

(注2) イエズス会修道会

聖イグナチオ・デ・ロヨラとその同志によって 1534 年に設立されたカトリックの男子修道会。創立者の一人聖フランシスコ・ザビエルは 1549 年に来日し、日本にはじめてキリスト教を伝えた。現在、全世界に約 2 万人弱の会員を擁し、日本においても教育活動、司牧、多岐にわたる奉仕活動に取り組んでいる。
